

鹿児島大学病院

研修医 菊野 秀彦 2017年8月

私は鹿児島大学病院初期研修医2年目の菊野秀彦と申します。

2017年8月の1か月間、地域医療の一環としまして、出水総合医療センターや関連施設で研修させて頂きました。

消化器内科を中心とした出水総合医療センターでの院内研修、関連施設である野田診療所、高尾野診療所、僻地医療として上場診療所、地域保健として出水保健センターで研修を行いました。

野田診療所では、各種エコーや急患の問診・身体診察などをさせて頂きました。外来診療でお忙しい中、エコー検査の手技や重要な所見などを丁寧に教えて頂き大変勉強になりました。また、往診では、病状や社会的背景のため病院への受診が困難な患者さんの診療を見学させて頂き、地域医療における在宅医療の必要性を垣間見ることが出来ました。

高尾野診療所では、慢性疾患のある患者さんに対する外来診療を、実際に経験させて頂きました。定期的な診察を行う中で、患者さんの訴えから適切な診断・治療を選択し、時に他の医療機関に紹介する診療の流れは、大学病院では中々見る機会がなく勉強になりました。

また、各診療所では、患者さんとの人間関係が非常に親密であり、会話の内容が日常生活に密着していたことが印象的でした。患者さんからの信頼も厚く、人情味溢れた医療を感じました。

院内研修では、上部消化管内視鏡を御指導頂き、他にも PTGBD や食道内ステント留置などの手技の見学もさせて頂きました。また、当科の先生方は、消化器に限らない疾患の患者さんを担当されており、地域医療では専門に縛られない臨床能力が必要であることを知りました。

院内では、その他にも看護部、医療安全管理、地域医療連携、臨床検査科、臨床工学科、リハビリテーション技術科、薬剤科の方々からレクチャーをしていただき、普段学ぶ機会があまりない多職種の方の仕事内容や、実際の医療現場における医師との連携などに関して学ぶことができました。

今回の地域医療研修を通じて、限られた医療資源の下で最良の医療を提供するプライマリケアの現場を見ることができ、その目標を達成するため様々な形で各病院や関連施設、多職種の方々が連携を取っていることを知りました。また、在宅医療では患者さんの疾患のみに限らず社会的背景も踏まえた全人的医療が行われており、目指すべき医療を経験することができたと思います。

最後になりましたが、院内の研修を担当して頂きました藤田先生をはじめとします消化器内科の先生方、各診療所の先生方、多職種の方々、そして全ての研修のサポートをしてくださいました宗清先生や事務の方々、大変ありがとうございました。